

◆ 当商品をご使用になる前に必ず本取扱説明書を よくお読みください。

KAWAI

DIGITAL PIANO

La3

取扱説明書

●同梱品

- ☐ 本体
- ☐ スタンドー式
- ☐ 高低自在椅子
- ☐ ACアダプター<PS-153>
- ☐ ヘッドホン
- ☐ ヘッドホンフック
- ☐ 取扱説明書（本書）
- ☐ クラシカル ピアノ コレクション（楽譜）
- ☐ スタンド組立図
- ☐ 保証書
- ☐ ご愛用者カード
- ☐ アフターサービスと音楽教室のご案内
- ☐ 「楽譜集」のご案内
- ☐ 「楽譜集」の払込取扱票

《ごあいさつ》

このたびは、KAWAIデジタルピアノLa3をお買い求め頂きまして誠にありがとうございます。La3はコンパクトボディながらもグランドピアノのタッチ感に大変近いアドバンスト・ハンマー・アクションIV-Eを搭載しています。ピアノ音色はKAWAIフルコンサートピアノEXをステレオサンプリングしたもので、大変リアルな音になっています。オルガンやハーブシコードなど全16音色を内蔵し、ピアノ以外の音色も楽しむことができます。それぞれの音色にはデモ曲が内蔵されており聴いて楽しむこともできます。また、自分の演奏を録音して再生するレコーダー機能やレッスン機能を搭載し、練習に役立てることができます。この他、タッチに対する音の感度を選べるタッチカーブ、指一本で内蔵40曲の演奏を楽しむことができるコンサートマジック、音に残響効果をつけるリバーブ、伝統的ないくつかの調律法による音律セッティングなど多彩な機能を装備しています。さらに、電子楽器統一規格であるMIDI端子を装備しており、他のMIDI端子を装備した電子楽器と接続してアンサンブルをするなど、バラエティに富んだ演奏にも対応できます。La3の性能をフルに発揮していただくとともに、いつまでも末永くご愛用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さるようお願い致します。

目 次

◆ 安全上のご注意	2
1.各部の名称と働き	4
◆パネル図	4
◆ペダル	4
◆ヘッドホン / 外部端子	5
2.演奏してみよう	6
1) 基本操作	6
◆セッティング	6
◆音色の選び方	7
2) デュアル演奏	8
3) リバーブ	10
4) デモ曲の演奏	11
5) コンサートマジック	13
6) タッチカーブ	16
7) トランスポーズ	17
8) メトロノーム	18
3.レッスン機能	20
1) 選曲	20
2) 再生	20
3) パート別再生	21
4.録音・再生	22
1) 録音	22
2) 再生	25
3) 曲の消去	26
5.設定モード	27
1) チューニング	29
2) 音律の設定	30
3) ダンパーエフェクト	32
◆MIDIについて	33
4) MIDI送信・受信チャンネル	35
5) プログラム(音色)ナンバー送信のオン / オフ	36
6) ローカル・コントロール	37
7) マルチ・ティンバー・モード	38
8) チャンネルミュート	39
9) プログラム(音色)ナンバー送信	40
6.付録	41
◆他の機器との接続	41
◆スタンドの組立方法	42
◆主な仕様	44
◆故障かなと思ったら	45
◆MIDIインプリメンテーション チャート	46

各部の名称と働き ①

演奏してみよう ②

レッスン機能 ③

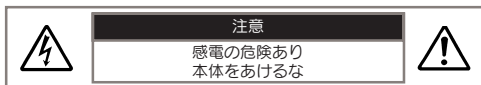
録音・再生 ④

設定モード ⑤

付録 ⑥

◆ 安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守って下さい。表示と意味は次のようになっています。製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。



注意：火災や感電防止のため、本体を雨や湿気の多いところに、さらさないで下さい。



このマークは、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

絵表示の例



△記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は「指を挟まないよう注意」が描かれています。



○記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。左図の場合は「分解禁止」が描かれています。



●記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。



警告

◆電源は、必ずAC100Vを使う

100V以外禁止



- 電圧の異なる電源を使用しないで下さい。
- 発火の恐れがあります。

◆水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない

濡れた手で触らない



- 感電の原因になります。

◆水がかかる場所で使用したり、水に濡らす（つける、かける、こぼす）などしない

- 漏電によって、感電や発火の原因になります。

◆本機の上に乗ったり倒したりしない

落とさない



- 運搬の際は、必ず2人以上で運んで下さい。

◆イスは次のように使用しない

- イスで遊んだり、踏み台にしない
- イスには2人以上で座らない
- イスの高さ調節は、イスから降りて行う（調節機能付きの場合）
- イス組立時、ネジをしっかりと締める

使用しない



- イスが倒れたり、指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。
- 不安定な場所に置かないでください。
- 長時間使用してイスのボルトがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

◆ヘッドホンは、大音量で長時間使用しない

長時間使用禁止



- 聴力低下の原因になる恐れがあります。

◆本機を分解、修理、改造しない

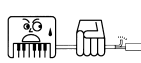
分解禁止



- 故障、感電、ショートの原因になります。

◆電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く

プラグ部分を持つ



- コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆長時間使用しない時は必ず電源プラグを抜く

プラグを抜く



- 落雷時に火災の原因になります。

◆鍵盤蓋は、ゆっくりしめる

ゆっくりしめる



- いきおいよくしめると、指をはさみ、けがの原因になります。

注意

◆本機を次のような所では使用しない

- 窓際など直射日光の当たる場所
- 暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
- 戸外など極端に温度の低い場所
- 極端に湿度の高い場所
- 砂やホコリの多い場所
- 振動の多い場所

使用禁止



- 故障の原因になります。

◆コード類を接続するときは、各機器の電源を切て行う

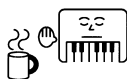
電源を切る



- 本機や接続機器の故障の原因になります。

◆本機の内部に異物を入れないようにする

異物を入れない



- 水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

◆本機の鍵盤にもたれない

もたれない



- 本体が倒れる恐れがあり、けがの原因になります。

◆テレビやラジオ等の電気機器の側に置かない

他電気機器から離す



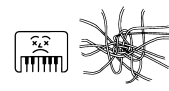
- 本機が雑音を発する恐れがあります。
- 本機が雑音を発したら、他の電気機器から十分に離すか、他のコンセントをご利用下さい。

◆電源には必ず付属のACアダプターを使用する。



- 付属のACアダプターは本機専用ですので、他の機器で使用しないで下さい。

◆電源コード、接続コード類は本体で踏んだりからまないように接続する

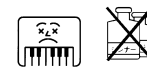


からまないようにする

- コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆ベンジンやシンナーで本機を拭かない

ベンジン／シンナー禁止



- 色落ちや、変形の原因になります。
- 清掃するときは、柔らかい布をぬるま湯につけて、よく絞ってから拭いて下さい。

◆本機の上に乗ったり、圧力を加えない

上に乗らない



- 変形したり、倒れる恐れがあり、故障や、けがの原因になります。

●ヘッドホン使用時、または音量下げて演奏の際は、構造上打鍵音（メカニズム音）が若干聞こえますが異常ではありません。ご了承ください。

●容易にコンセントの抜き差しができるよう、本機を電源コンセントの近くに設置してください。

●パイロットランプが消えていても、コンセントを差し込んだ状態であれば、機器に電源がつながっていますので感電にご注意ください。

■パネル上のディスプレイには、あらかじめ保護用の透明シートが貼り付けてあります。

■保証書について

- 本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行って下さい。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。

- 保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管下さい。

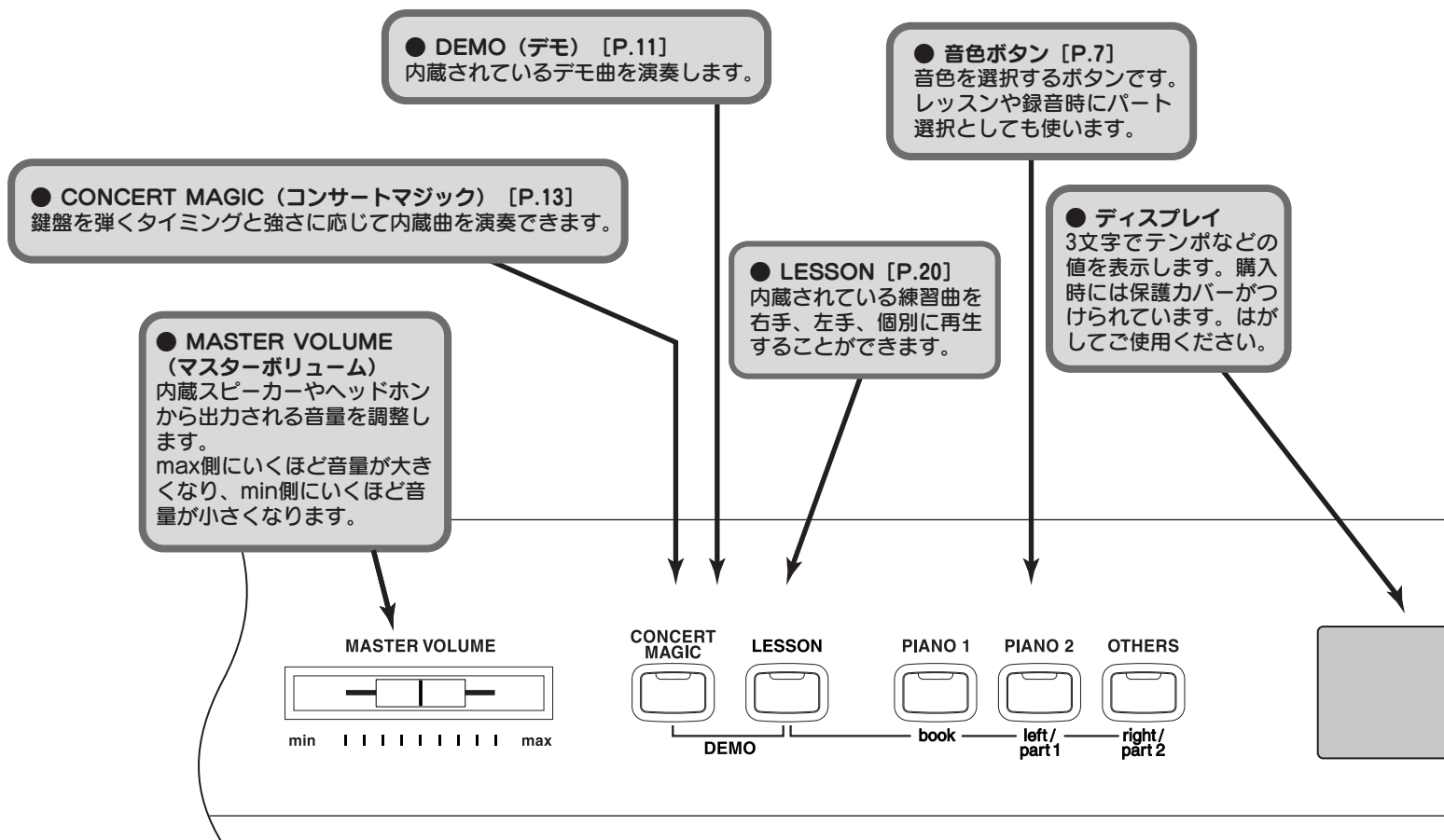
■修理について

- 万一異常があるときはすぐに電源スイッチを切り、ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて、お買い求めいただいた販売店、またはお近くのカワイ・テクノ・センター（同梱の「アフターサービスと音楽教室のご案内」をご参照ください）までご連絡ください。

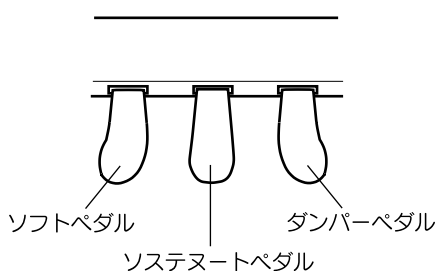
1.各部分の名称と働き

スライダーやボタンなどの位置とその機能を説明します。

◆パネル図



◆ペダル



●ダンパーペダル

音の減衰が長く伸びます。ペダルを踏む量によって減衰の長さが変わります。ピアノは、鍵盤を押すとハンマーが弦をたたき音が出ますが、指を離すとダンパーが弦を止めて発音が止まります。ダンパーペダルを踏むと指を離してもダンパーが弦を止めないため、音が止まらず豊かな響きが得られます。

●ソステヌートペダル

鍵盤を押した後、このペダルを踏んでから指を離すと、そのとき押さえていた鍵盤の音の減衰が長く伸びます。このペダルを踏んだ後に押した別の鍵盤の音は、通常通り発音します。

●ソフトペダル

音量がわずかに下がると同時に音の響きがやわらかくなります。

● VALUE (バリュー)

いろいろな値を設定するときに使います。

● RECORDER [PLAY/STOP.REC]
(レコーダー [プレイ/ストップ.レック]) [P.22]
PLAY/STOP.RECの2つのボタンを使って、
演奏を録音、再生することができます。

● METRONOME [TEMPO/BEAT] [P.18]
(メトロノーム [テンポ・ビート])

メトロノーム音を鳴らし、テンポ/拍子/音量を設定します。

● REVERB (リバーブ) [P.10]

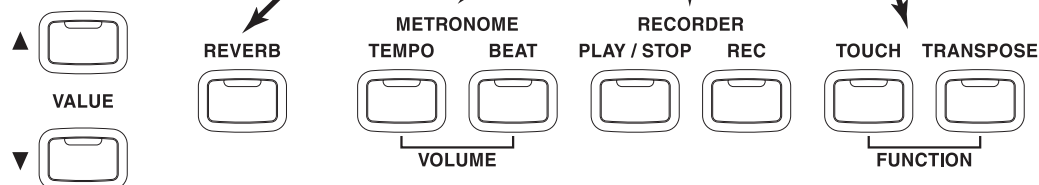
音にリバーブ効果(残響効果)を与えることで、美しい響きが得られます。

● FUNCTION (ファンクション) [P.27]
TOUCHとTRANSCOPEボタンの同時押しで、
設定モードに入ります。

● TOUCH (タッチ) [P.16]
タッチの感度を切り換えるボタンです。
消灯でノーマルタッチです。

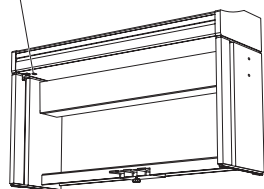
● TRANSCOPE (トランスポーズ) [P.17]
弾き方を変えずに移調する機能です。
調の異なる楽器とのアンサンブルや、歌の伴奏
をするなどに便利です。

● POWER (電源スイッチ)
電源をON/OFFするスイッチです。
ご使用後は必ず電源スイッチを切っ
てください。

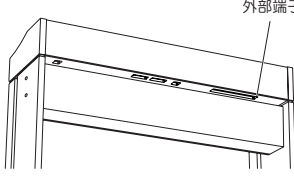


◆ ヘッドホン / 外部端子

ヘッドホン端子



外部端子



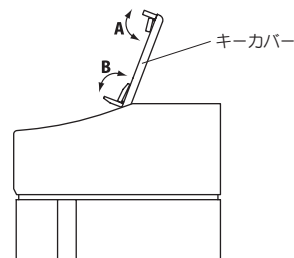
●ヘッドホン端子 (2個)

ヘッドホンを接続する端子です。
ヘッドホンを2つまで接続できます。

●外部端子

他の機器と接続するための端子です。(詳細はP.41参照)

◆キーカバー



お使いになる時にはキーカバーを開き、

- ①キーカバーの前部Aを折りたたみ、
- ②譜面受けBを起こして下さい。

キーカバーを閉める時は、パネルを傷つけないために

- ①譜面受けBをたたみ、
- ②キーカバーの前部Aを起こしてから閉めてください。

2.演奏してみよう

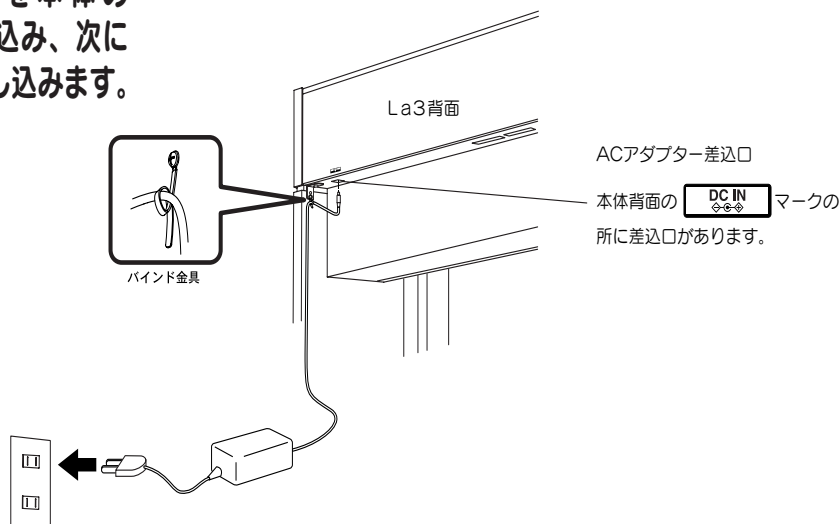
1) 基本操作

ここでは、電源を入れ音を出すまでの基本的な手順を説明します。

◆セッティング

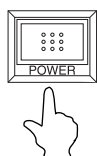
◇操作 1

付属の AC アダプターを本体の DC IN 15V 端子に差し込み、次に AC100V のコンセントに差し込みます。

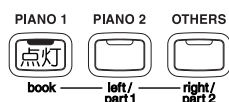


◇操作 2 パワー

POWER (電源スイッチ) ボタンを押して電源を ON にします。



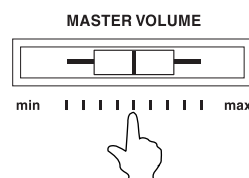
POWER ボタンを押すと音色セレクトボタン の PIANO1 と表示されているボタンが点灯します。(コンサートグランドの音色が自動的に選ばれます。)



REVERB ボタンも点灯します。(REVERB は P.10 参照)

◇操作 3

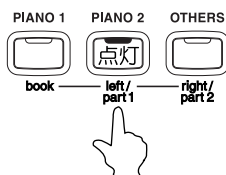
MASTER VOLUME スライダーを中央付近にセットします。



◆音色の選び方

◇操作 1

音色を選びましょう。



音色ボタンのひとつを押します。

押されたボタンのランプが点灯し、ディスプレイにそのボタンの中の現在選ばれている音色の番号が表示されます。鍵盤を弾くとその音色が鳴ります。

同じ音色ボタンを続けて押すか、VALUE ボタンを押すとディスプレイの音色番号が変わり、そのボタンの中の別の音色を選ぶことができます。

VALUE ボタンを押していった場合は隣のボタンの音色を選ぶことができます。

PIANO1 と PIANO2 にはそれぞれ3つ、OTHERS には 10 種類の音色が入っています。

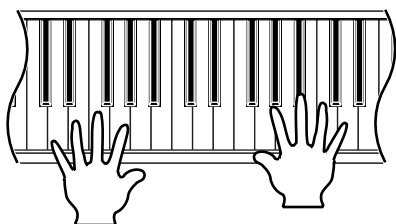


◇ 内蔵音色

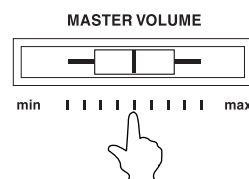
音色ボタン	番号	音色名	内 容
PIANO1 [ピアノ 1]	1	コンサートグランド	標準的なグランドピアノの音です。
	2	スタジオグランド	音質が異なる明るめのグランドピアノの音です。
	3	メロウグランド	柔らかめのグランドピアノの音です。
PIANO2 [ピアノ 2]	1	モダンピアノ	明るめのグランドピアノの音です。
	2	ホンキートンクピアノ	古いアメリカ音楽などで使われるチューニングを狂わせたピアノの音です。
	3	ロックピアノ	ロックなどで使われる硬めのピアノの音です。
OTHERS [アザーズ]	1	エレクトリックピアノ 1	古いタイプのエレクトリックピアノの音です。
	2	エレクトリックピアノ 2	新しいタイプのエレクトリックピアノの音です。
	3	チャーチオルガン	パイプオルガンの音です。
	4	ハープシコード	バロック音楽などで使われる別名チェンバロの音です。
	5	ビブラフォン	大型の鉄琴の音です。
	6	ストリングアンサンブル	オーケストラの弦楽器の音です。
	7	スロースtringス	音の立ち上がりがゆっくりした弦楽器の音です。
	8	クワイア	人の合唱の音です。
	9	ファンタジー 1	ファンタジックな電子合成音です。
	10	ファンタジー 2	〃

◇操作 2

鍵盤を弾いてみましょう。



鍵盤を弾けば " 操作 1 " で選んだ音で演奏することができます。音量を調節したい時は、MASTER VOLUME スライダーを操作します。



■複数の鍵盤を同時に押した時の発音数（同時発音数）は、最大 96 音です。（音色によって異なります。）

2) デュアル演奏

デュアルとは2つの音色を重ね合わせる機能です。鍵盤を弾くと、選んだ2つの音色が同時に発音し、音に独特の厚みを与えることができます。

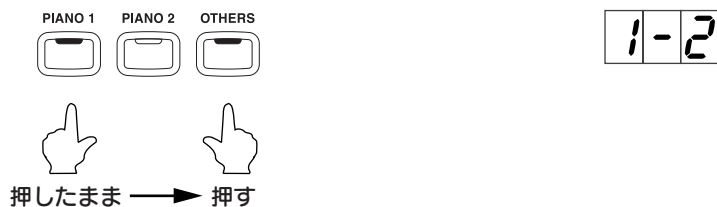
◇操作 1

2つの音色ボタンを同時に押します。
(または1つの音色ボタンを押したまま、もう1つの音色ボタンを押します。)

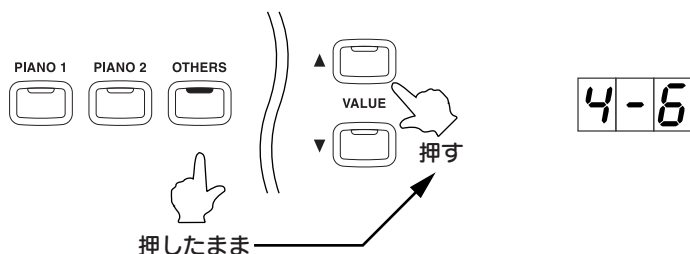
押されたボタンのランプが点灯し、ディスプレイに2つのボタンの中で現在選ばれている音色の番号が表示されます。左側のボタンの番号がディスプレイの左に、右側のボタンの番号がディスプレイの右に表示されます。鍵盤を弾くとそれらの音色が重なって鳴ります。



1つの音色ボタンを押したままで片方の音色ボタンを押していくと、その音色ボタンの番号が切り替わります。



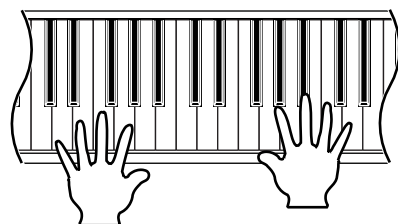
同じ音色ボタンの中の2つの音色を重ね合わせる場合には、音色ボタンを押したまま VALUE ボタン (▲▼) を押します。例えば、OTHERS ボタンの中のハーブシコードとストリングアンサンブルを重ねる場合には OTHERS ボタンでハーブシコード (4番) を選んだ後、OTHERS ボタンを押したまま VALUE ボタンを押してストリングアンサンブル (6番) を選びます。



◇操作 2

鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾けば選んだ2つの音色が重なって発音されます。



◇操作 3

デュアル演奏を解除する時は、音色ボタン のどれか1つを押します。

新たに音色が選ばれると同時に、デュアル演奏の設定が解除されます。

■下記の音色は音をリアルにするエフェクト（効果）があらかじめついたものになっています。

- ・エレクトリックピアノ1 コーラス（音に拡がりを加えます）
- ・エレクトリックピアノ2 コーラス（音に拡がりを加えます）
- ・ビブラフォン トレモロ

これらの音色をデュアルで選んだ場合、先に選んだ場合はエフェクトがかかりますが、後に選んだ場合はオフになります。

3) リバーブ

◆音に REVERB（リバーブ）を加える

◇ リバーブとは？

リバーブを加えると、音に残響が加わり深みのある美しい響きが得られます。

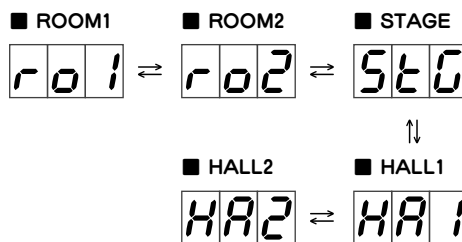
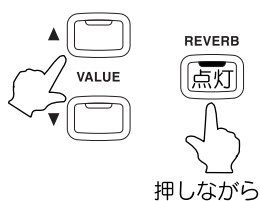
La3 では、以下の 5 種類のリバーブを用意しています。

- ◇ ROOM1、2（ルーム 1、2） 室内で演奏している時の残響効果が得られます。ルーム2の方が長い残響時間が得られます。
- ◇ STAGE（ステージ） ステージで演奏している時の残響効果が得られます。
- ◇ HALL1、2（ホール 1、2） ホールで演奏している時の残響効果が得られます。ホール2の方が長い残響時間が得られます。

◇操作 1

REVERB ボタン を押しなが^{リバーブ}ら **VALUE ボタン** でリバーブの種^{バリュー}類を選びます。

REVERB ボタン のランプが点灯します。



REVERB ボタン を押している間、ディスプレイに今選ばれているリバーブの種類が表示されます。

REVERB ボタン を押して消灯させると、音色のリバーブは解除されます。

再度 REVERB ボタン を押して点灯させると、前回選択していた種類のリバーブが加えられます。

■音色にはあらかじめリバーブがセットされています。セットされているリバーブの種類は音色によって異なります。

4) デモ曲の演奏

La 3は付属の楽譜集「クラシカル ピアノ コレクション」に収められているピアノ 29曲を本体に内蔵しています。

さらに各音色毎にその音色の特徴を生かしたデモ曲を 15 曲内蔵しています。

クラシカルピアノコレクション

曲番号	曲名	作曲家
C01	タンブラン Tambourin	J.P.Rameau (ラモー)
C02	調子のよいかじ屋 The harmonious blacksmith	G.F.Handel (ヘンデル)
C03	メヌエット ト長調 Menuett BWV.Anh.114	J.S.Bach (バッハ)
C04	メヌエット ト長調 Menuett BWV.Anh.115	J.S.Bach (バッハ)
C05	メヌエット ト長調 Menuett BWV.Anh.116	J.S.Bach (バッハ)
C06	かっこう Le Coucou	L.C.Daquin (ダカン)
C07	ガヴォット Gavotte	F.J.Gossec (ゴセック)
C08	メヌエット Menuett	L.Boccherini (ボッケリーニ)
C09	主題と変奏“ピアノソナタ第11番K.331より第1楽章” Thema und	W.A.Mozart (モーツァルト)
C10	トルコ行進曲“ピアノソナタ第11番K.331より第3楽章” Turkischer Marsch	W.A.Mozart (モーツァルト)
C11	メヌエット Menuet	W.A.Mozart (モーツァルト)
C12	ピアノ・ソナタ「月光」より第1楽章 Sonate fur Klavier No.14 “Mondschein”	L.v.Beethoven (ベートーベン)
C13	ピアノ・ソナタ「悲愴」より第2楽章 Sonate fur Klavier No.8 “Pathetique”	L.v.Beethoven (ベートーベン)
C14	エリーゼのために Fur Elise	L.v.Beethoven (ベートーベン)
C15	ロンド・ファヴォリ Rondo favori	J.N.Hummel (フンメル)
C16	即興曲 作品90の 4 Impromptu op.90-4	F.P.Schubert (シューベルト)
C17	楽興の詩 作品94の 3 Moments musicaux op.94-3	F.P.Schubert (シューベルト)
C18	間奏曲 Entr'acte	F.P.Schubert (シューベルト)
C19	即興曲 作品142の 3 Impromptu op.142-3	F.P.Schubert (シューベルト)
C20	歌の翼に Auf Flugeln des Gesanges	F.Mendelssohn (メンデルスゾーン)
C21	春の歌 Frühlingslied	F.Mendelssohn (メンデルスゾーン)
C22	ロンド・カプリッチョーゾ Rondo Capriccioso	F.Mendelssohn (メンデルスゾーン)
C23	別れの曲 Chanson de l'adieu	F.F.Chopin (ショパン)
C24	雨だれの前奏曲 Raindrop	F.F.Chopin (ショパン)
C25	子犬のワルツ Petit chien	F.F.Chopin (ショパン)
C26	ノクターン第2番 Nocturne No.2	F.F.Chopin (ショパン)
C27	幻想即興曲 Fantaisie-Impromptu	F.F.Chopin (ショパン)
C28	軍隊ポロネーズ Polonaise No.3 “Militaire”	F.F.Chopin (ショパン)
C29	英雄ポロネーズ Polonaise No.6 “Herolque”	F.F.Chopin (ショパン)

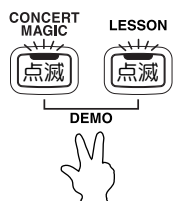
演奏してみよう②

音色デモ

	番号	音色名	曲名	作曲者
PIANO 1 (ピアノ1)	1	コンサートグランド	イタリア協奏曲	バッハ
	2	スタジオグランド	カワイオリジナル	
	3	メローグランド	亜麻色の髪の乙女	ドビュッシー
PIANO 2 (ピアノ2)	1	モダンピアノ	カワイオリジナル	
	3	ロックピアノ	カワイオリジナル	
OTHERS (アザース)	1	エレクトリックピアノ1	カワイオリジナル	
	2	エレクトリックピアノ2	カワイオリジナル	
	3	チャーチオルガン	トッカータ	ジグー
	4	ハーブシコード	フランス組曲第6番	バッハ
	5	ビブラフォン	カワイオリジナル	
	6	ストリングアンサンブル	四季 “春”	ヴィヴァルディ
	7	スローストリングス	カワイオリジナル	
	8	クワイア	カワイオリジナル	
	9	ファンタジー 1	カワイオリジナル	
	10	ファンタジー 2	カワイオリジナル	

◇ 操作 1

コンサートマジック LESSON
CONCERT MAGIC ボタンと LESSON ボタンを同時に押します。

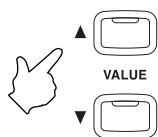


CONCERT MAGIC ボタンと LESSON ボタンのランプが点滅し、クラシカルピアノコレクションの 29 曲がランダムに演奏されます。

CONCERT MAGIC ボタンか LESSON ボタンのいずれかを押すと演奏が止まります。

◇ 操作 2

バリュー
VALUE ボタンを押して曲を変更することができます。

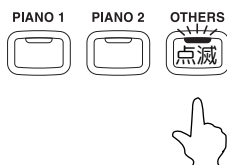


変更した場合ランダムが解除されて曲順にしたがって演奏されるようになります。

◇ 操作 3

音色デモ曲を選ぶ

操作 1 でデモモードに入った後音色ボタンを押すと音色デモを選ぶことができます。



■音色ボタンを繰り返し押しすることにより音色デモリストのデモ曲を選ぶことができます。
(ディスプレイには音色番号が表示されます。)

◇ 操作 3

コンサートマジック LESSON プレイ/ストップ
CONCERT MAGIC ボタンか LESSON ボタンもしくは PLAY/STOP ボタンを押すと演奏が止まります。

CONCERT MAGIC ボタンと LESSON ボタンのランプが消灯し通常の状態にもどります。

5) コンサートマジック

コンサートマジックは、指一本で本格的なピアノ演奏を可能にする画期的な機能です。
誰にでも、（高度な曲が弾けない人にも）鍵盤を使って演奏を楽しむことができます。
本機には、コンサートマジック用に40曲の演奏曲を内蔵しています。

	最低音	グループ
1. きらきら星……………	ラ	●子供の曲
2. ロンドン橋……………	シ	
3. ふるさと……………	ド C0	
4. 山の音楽家……………	レ	
5. もみじ……………	ミ	
6. ゆき……………	ファ	
7. 10人のインディアン……………	ソ	
8. さくらさくら……………	ラ	
9. わらの中の七面鳥……………	シ	
10. 森のくまさん……………	ド C1	
11. 聖者の行進……………	レ	●アメリカの クラシック音楽
12. おじいさんの古時計……………	ミ	
13. リパブリック賛歌……………	ファ	
14. ロンドンデリーの歌……………	ソ	
15. ケンタッキーの我が家……………	ラ	
16. 草競馬……………	シ	
17. 線路は続くよどこまでも……………	ド C2	
18. ウィリアムテル序曲……………	レ	●クラシック音楽
19. 天国と地獄……………	ミ	
20. エンターティナー……………	ファ	
21. 花のワルツ……………	ソ	
22. スケートワルツ……………	ラ	
23. 闘牛士の歌……………	シ	
24. ブラムスの子守歌……………	ド C3	
25. アメリカンパトロール……………	レ	
26. 眠りの森の美女……………	ミ	
27. ガボット……………	ファ	
28. 軍隊行進曲……………	ソ	
29. 双頭のわしの旗のもとに……………	ラ	
30. エリーゼのために……………	シ	
31. 結婚行進曲……………	ド C4	
32. 婚礼の合唱……………	レ	
33. おめでとうクリスマス……………	ミ	●クリスマスの曲
34. ジンゲルベル……………	ファ	
35. もろ人ごぞりて……………	ソ	
36. きよしこの夜……………	ラ	
37. フニクリフニクラ……………	シ	●世界の民謡
38. こぎつね……………	ド C5	
39. アニーローリー……………	レ	
40. サンタルチア……………	ミ	
	ファ	

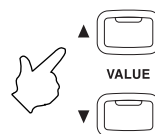
◇ コンサートマジック曲の選択

◇ 操作 1
コンサートマジック
CONCERT MAGIC ボタンを押します。

コンサートマジック
CONCERT MAGIC モードに入ります。
ディスプレイに曲ナンバーが表示されます。



◇ 操作 2
バリュー
VALUE ボタンで曲を選択します。

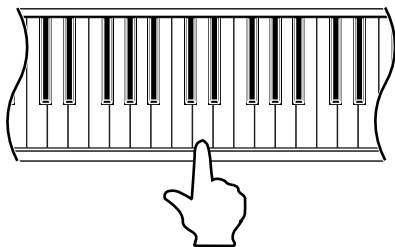


これらの曲が掲載された楽譜集「コンサートマジック曲集 Vol.2」(¥2,600)が発売されております。楽譜掲載88曲中に、これらの40曲が全て含まれています。
同封の「楽譜集のご案内」をご参照ください。又、お申込は同封の申込用紙をご利用ください。
コンサートマジックの魅力的な世界が一層広がります。

◆ コンサートマジックの演奏

◇ 操作 1

演奏したい曲を選んだ後、鍵盤を弾きます。



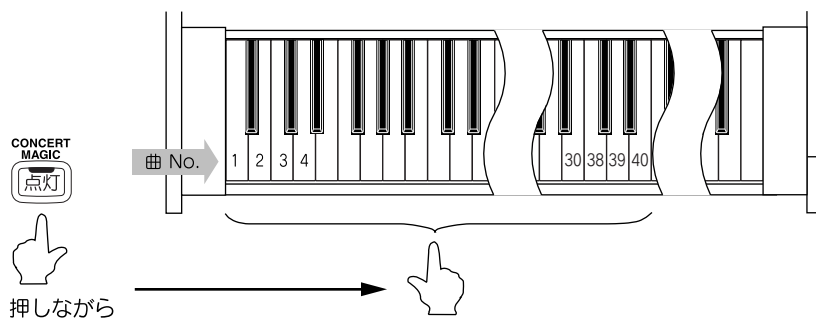
どの鍵盤でもかまいません。
鍵盤を弾くタイミングで演奏が進んでいきます。
鍵盤を弾くタッチによって強弱をつけることもできます。

通常の音色変更の場合と同様の操作で、音色を変更することができます。

◆ 鍵盤による曲の選択

40 曲のコンサートマジック曲は、鍵盤に割り当てられており、^{バリュー}VALUE ボタンを使う以外にこの鍵盤を使って曲を選択することができます。
(P.16 表参照)

^{コンサートマジック}CONCERT MAGIC ボタンを押しながら曲が割り当てられている鍵盤を押します。



ディスプレイには、曲ナンバーが表示されます。

◆ コンサートマジックの終了

^{コンサートマジック}CONCERT MAGIC ボタンを押すと ^{コンサートマジック}CONCERT MAGIC ボタンのランプが消灯し通常の演奏状態に戻ります。



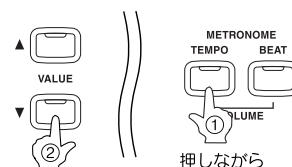
◆コンサートマジック曲の再生

コンサートマジック曲は、普通のデモ曲として再生することができます。
どんな曲かまず聴いてみたいときに便利な機能です。

◇ 操作 1

プレイ/ストップ
PLAY/STOP ボタンを押します。

選択されている曲の再生がはじまります。
再生中、音色ボタンを押して音色変更ができます。
VALUE ボタンで曲目を変更することができます。
TEMPO ボタンを押しながら VALUE ボタンを押してテンポを調節できます。



◇ 操作 2

演奏を止めるには、もう一度 プレイ/ストップ PLAY/STOP ボタンか
コンサートマジック CONCERT MAGIC ボタンを押します。

CONCERT MAGIC ボタンを押した場合、通常の演奏状態に戻ります。

◆再生方法の種類

◇ チェイン再生

コンサートマジック CONCERT MAGIC ボタンを押して コンサートマジック CONCERT MAGIC モードに入った後、鍵盤で曲選択をせずに PLAY/STOP ボタンを押します。

1 曲目から 40 曲目まで順番に繰り返し再生します。

◇ ループ再生

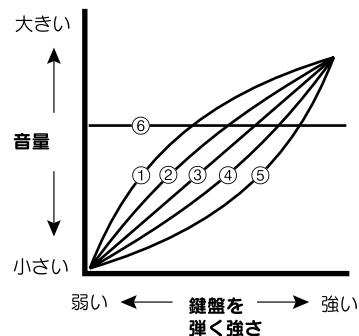
P 14 の操作に従って鍵盤で曲選択をします。後 プレイ/ストップ PLAY/STOP ボタンを押します。

選択されている曲が繰り返し再生されます。

6) タッチカーブ

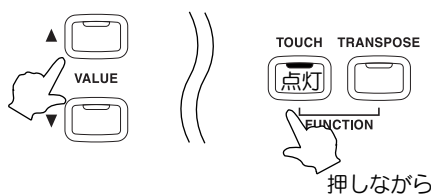
ピアノでは、鍵盤を弾く力をだんだん強くしていくと、音量もだんだん大きくなっていきます。
鍵盤を弾く強さと音量の関係を表したものをタッチカーブと呼びます。
La3 では、6 種類のタッチカーブから 1 つ選ぶことができます。

- ① **LIGHT2** : 弱いタッチで弾いても大きな音がでます。
- ② **LIGHT1**
(ライト) : 小さなお子様や、オルガンプレーヤー向けのタッチカーブです。
- ③ **NORMAL**
(ノーマル) : アコースティックピアノと同程度のタッチで音量が変化します。
- ④ **HEAVY1** : 強いタッチで弾かないと大きな音が出ません。
- ⑤ **HEAVY2**
(ヘビー) : 指の力の強い人や練習向けのタッチカーブです。
- ⑥ **OFF**
(オフ) : 鍵盤を弾く強さに関係なく常に一定の大ききで発音します。ハーブシコード、オルガンなど、本来タッチで音が変わらない音色の場合に使います。



◇操作 1

^{タッチ} TOUCH ボタンを押しながら ^{バリュー} VALUE ボタン を押して
タッチの種類を選びます。



TOUCH ボタンのランプが点灯し、ボタンを押している間ディスプレイに現在選ばれているタッチカーブが表示されます。
VALUE ボタン (▲▼) を押してタッチカーブを選択します。

ここで選択したタッチカーブは、TOUCH ボタンのランプが点灯時に有効になります。
TOUCH ボタンのランプが消灯時は、NORMAL (ノーマル) に設定されます。
電源を入れたときはライト 1 に設定されているので、TOUCH ボタンを押すとライト 1 のタッチカーブになります。

■ Heavy2 ■ Heavy1 ■ Light1 ■ Light2 ■ Off

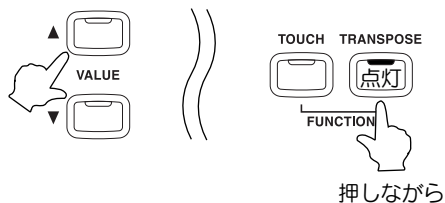
HE2 ⇒ HE1 ⇒ Lt1 ⇒ Lt2 ⇒ OFF

7) トランスポーズ

調の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾き方を変えずに簡単に移調できます。
La3では-12~+12（全2オクターブ）の間で設定できます。数字は半音単位で、1オクターブは12半音です。

◇操作1

トランスポーズ
TRANSPOSE ボタンを押しながら バリュ
VALUE ボタン で移調させます。



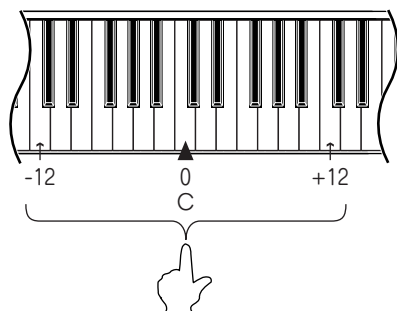
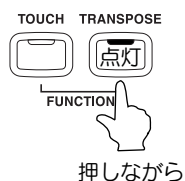
-12 ~ 0 ~ 12

TRANSPOSE ボタンのランプが点灯し、ボタンを押している間、現在セットされているトランスポーズの値がディスプレイに表示されます。

電源オン時は「0」に設定され TRANSPOSE ボタンのランプは消灯しており、押しても点灯しません。

VALUE ▲ ボタンを押す度に半音ずつ調が上がり、VALUE ▼ ボタンで半音ずつ調が下がります。

TRANSPOSE ボタンを押しながら鍵盤を押しても移調できます。



鍵盤中央のド（C）が0です。
ディスプレイに値が表示されます。

TRANSPOSE ボタンのランプは、八長調（C）以外のキーにセットされている時に押すと点灯します。

例えば、ここで「-3」にセットしておき、TRANSPOSE ボタンのランプを点灯させれば、半音3つ分音が下がり TRANSPOSE ボタンのランプを消灯させれば、ワンタッチで八長調（C）のキーに戻ります。

8) メトロノーム

メトロノームを使って練習をしましょう。

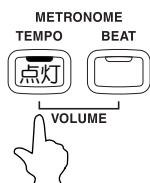
L a 3 では、1/4 拍子、2/4 拍子、3/4 拍子、4/4 拍子、5/4 拍子、3/8 拍子、6/8 拍子が設定できます。

◆メトロノームの発音とテンポ設定

◇操作 1

テンポ

TEMPO ボタンを押します。



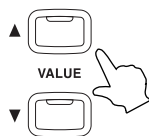
120

TEMPO ボタンが点灯し、メトロノームが発音します。
ディスプレイに現在のテンポの値が表示されます。

◇操作 2

バリュー

VALUE ボタン を押してテンポの早さを設定します。



ディスプレイにテンポが表示されている間、テンポの値を ♩=10 ~ 300 の範囲で
設定できます。(3/8、6/8 拍子のときは、♩=20 ~ 600)

10 ~ 300

◇操作 3

テンポ

TEMPO ボタン を押すとメトロノームが止まります。

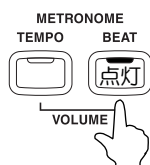
TEMPO ボタン のランプは消灯します。

◆メトロノームの拍子設定

◇操作 1

ビート

BEAT ボタンを押します。

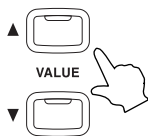


4-4

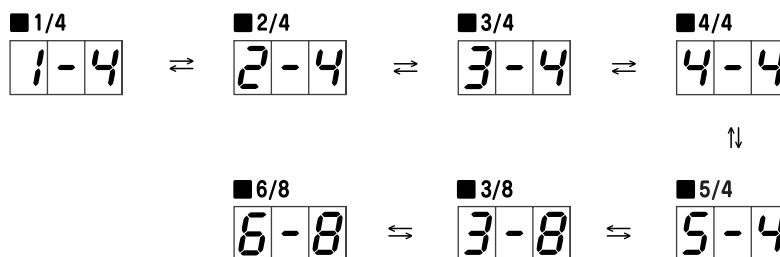
BEAT ボタン が点灯し、メトロノームが発音します。
ディスプレイに現在の拍子が表示されます。

◇操作 2

^{バリュ-}
VALUE ボタン を押して拍子を選びます。



ディスプレイに拍子が表示されている間、1/4, 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, 3/8, 6/8 拍子より選ぶことができます。



◇操作 3

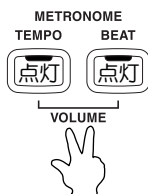
^{ビート}
BEAT ボタン を押すとメトロノームが止まります。

BEAT ボタンのランプは消灯します。

◆メトロノームの音量設定

◇操作 1

^{テンポ} TEMPO ボタンと ^{ビート} BEAT ボタンを同時に押します。

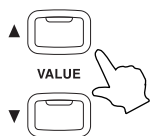


2つのボタン が点灯し、メトロノームが発音します。
ディスプレイに現在の音量の値が表示されます。

◇操作 2

^{バリュ-}
VALUE ボタン を押して音量を設定します。

ディスプレイに音量が表示されている間、1 ~ 10 の範囲で設定できます。



◇操作 3

^{テンポ} TEMPO ボタンと ^{ビート} BEAT ボタンを同時に押すとメトロノームが止まります。

TEMPO ボタン、BEAT ボタンのランプは消灯します。

3. レッスン機能

L a 3は上達に役立つ練習曲を内蔵しています。

バイエル、ブルクミュラーなどの練習曲の見本を聴きながら右手、左手を別々に練習することができます。
内蔵している見本曲集は下記です。

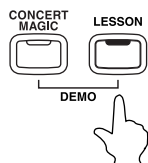
1. バイエルピアノ教則本 全曲（ただし予備練習、付録を除く）（カワイ出版）
2. ブルクミュラー25の練習曲全曲（カワイ出版）

ブルクミュラーは通常の再生の他に、初めての練習に役立つようにペダルなし再生ができます。

◆練習したい曲を選ぶ

◇操作 1

LESSON ボタンを押します。

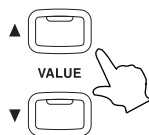


LESSON ボタンのランプが点灯し、レッスンモードに入ります。
ディスプレイには現在選ばれている曲番号が表示されます。
電源オン直後はバイエルの曲集の1番が選ばれます。

001

◇操作 2

VALUE ボタンで曲の番号を選びます。



002

バイエルの1番と2番はバリエーションがそれぞれ12曲と8曲ずつありますので曲の番号は001, 1-1, …1-12, 002, 2-1, … 2-8, 003, 004, … 106 の順になります。

また他の曲集についてはブルクミュラーペダルなし (b. 01 … b.25)、ブルクミュラーペダルあり (b 01 … b 25) となります。曲集を変更するにはbook ボタンを使用します。book ボタンを押すたびに曲集が変わります。



◆見本曲を聞く

◇操作

PLAY/STOP ボタンを押します。

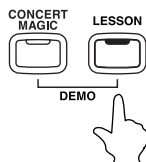


1小節のメトロノームが鳴った後、選んだ見本曲が再生されます。
途中で止めたい場合はもう一度 PLAY/STOP ボタンを押します。
(一時停止状態になり PLAY/STOP ボタンは点滅します) もう一度
PLAY/STOP を押すとそこから再生されます。
完全に止めたい場合は、ボタンのランプが消えるまで押し続けるか、
曲を選びなおします。

◆レッスン機能の終わり方

◇操作

LESSON ボタンを押します。



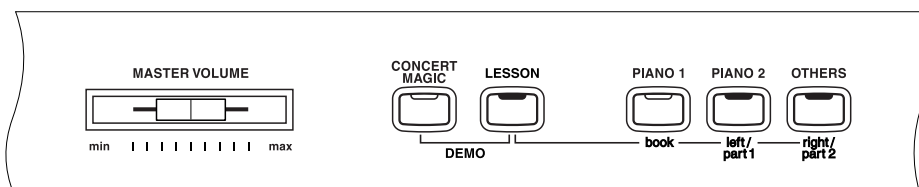
LESSON ボタンのランプが消灯し、通常の状態に戻ります。

◆見本曲の片方のパートを再生しながら、もう片方のパートを練習する

見本曲の片方のパートだけを再生することを「マイナスワン再生」といい、片方のパートを再生させながらもう片方のパートを練習することを「マイナスワン練習」といいます。

◇操作

見本曲を選んだ後、パートを選びます。



点灯しているパートが再生されます。曲を選んだ後は両方のパートボタンが点灯しています。

■見本曲の左手パート (left) を再生しながら右手パート (right) を練習したい場合

曲を選んだ後 right ボタンを押します。right のランプが消灯し、left のランプのみが点灯して左手パートのみが再生されます。

■見本曲の右手パート (right) を再生しながら左手パート (left) を練習したい場合

曲を選んだ後 left ボタンを押します。left のランプが消灯し、right のランプのみが点灯して右手パートのみが再生されます。

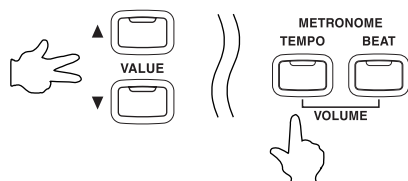
■自分のパートの見本を再生しながら合わせて演奏した場合、弾く音程やタイミングによっては音質が変化することがありますが、これは故障ではありません。気になる場合は、消して下さい。

◆練習曲のテンポを変更する

◇操作

TEMPO ボタンを押しながら VALUE ボタンで値を設定します。

元のテンポに戻すには TEMPO ボタンを押しながら VALUE ボタン (▲、▼) を同時に押すか、曲を選びなおします。



4.録音・再生

1) 録音

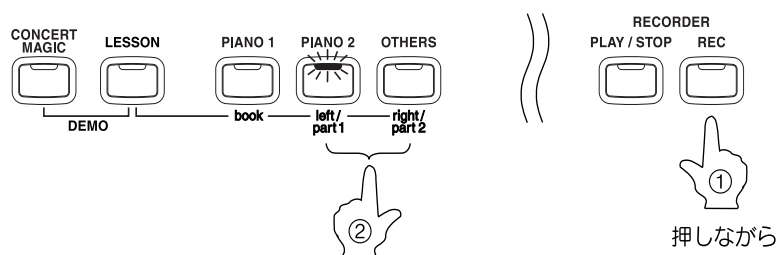
La 3では、自分の演奏を録音・再生することができます。

曲（ソング）は、2つのパートから構成されており、2つのパート（例えば左手と右手など）の演奏を録音することができます、再生時には重ね合わせて再生できます。

録音は、パート（part）を選択して行います。

◇操作 1

REC ボタンを押しながらパートを選択します。



REC ボタンを押している間、パートボタンが点滅しています。
この点滅しているボタンが録音の行われるパートです。

（この時、PART ボタンを押して録音するパートを変更できます。）

パートの選択をしないと自動的にパート1が選択されます。

この時、REC ボタンを押しながらパート2ボタンを押してランプを点滅させパート2へ録音することもできます。

REC ボタンを離すと点滅していたパートボタンのランプが消灯し、REC ボタンのランプが点滅します。（録音待機状態）

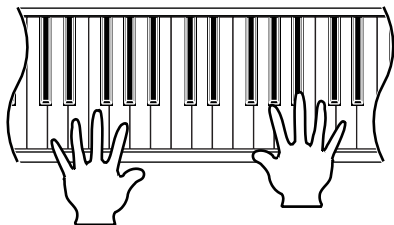
また同時に音色のランプ（設定する以前に選択していた音色）が点灯します。

ここで録音を行う音色を設定できます。

◇操作 2

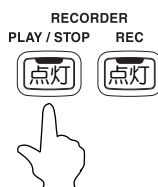
鍵盤を弾いて録音をスタートします。

(PLAY/STOP ボタンを押しても録音を開始できます。)



鍵盤を弾くと自動的に録音がスタートします。

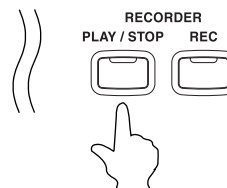
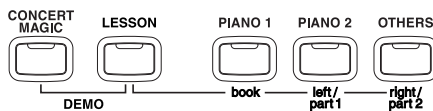
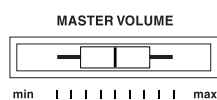
このとき、PLAY/STOP ボタンと REC ボタンのランプが点灯します。



録音中の音色変更も記憶されます。

◇操作 3

演奏が終わったら PLAY/STOP ボタンを押して録音を終了します。

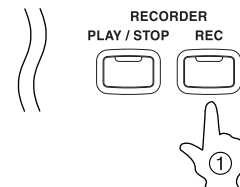
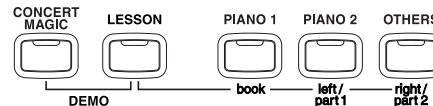
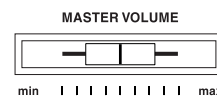


REC ボタンと PLAY/STOP ボタンのランプが消え録音が停止します。

◆ひき続き、パート 1 に録音した演奏を聴きながら、パート 2 の録音をしてみましょう。

◇操作 1

REC ボタンを押しながら パート2 ボタンを押します。



押しながら

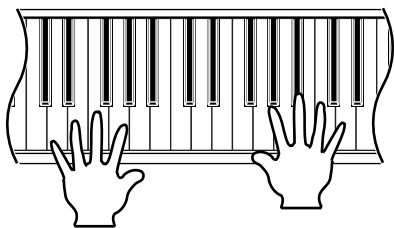
パート2 ボタンのランプが点滅し、録音待機状態であることを示します。

また、パート1 ボタンのランプが点灯していますが、パート1 の録音内容が再生待機状態であることを示しています。

パートを変更しない場合はパート1 に録音内容が上書きされます。

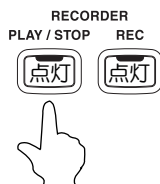
◇ 操作 2

鍵盤を弾きパート2への録音を開始します。



鍵盤を弾くと自動的にパート2の録音が始まり、同時にパート1が再生されます。

このとき REC ボタンと PLAY/STOP ボタンのランプが点灯します。

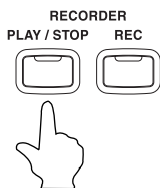


鍵盤を弾かずに PLAY/STOP ボタンを押して録音を開始させることもできます。

◇ 操作 3

PLAY/STOP ボタンを押して録音を終了します。

REC ボタンと PLAY/STOP ボタンのランプが消え、パート2の録音とパート1の再生が停止します。



■ レコーダーの総記憶容量は、約 7500 音です。録音中に記憶容量が一杯になったときは、録音が中止されます。中止される直前までの演奏は録音されます。

■ レコーダーに記憶した内容は、本体の電源を切っても消えません。

■ パート1に既に録音されているソングのパート2に録音するとき、パート1の演奏を再生しないでパート2に録音したいときは、REC ボタンを押す前に PLAY/STOP ボタンを押しながらパート1ボタンを押してパート1のランプを消灯します。

■ 録音中のパネル操作に関して...

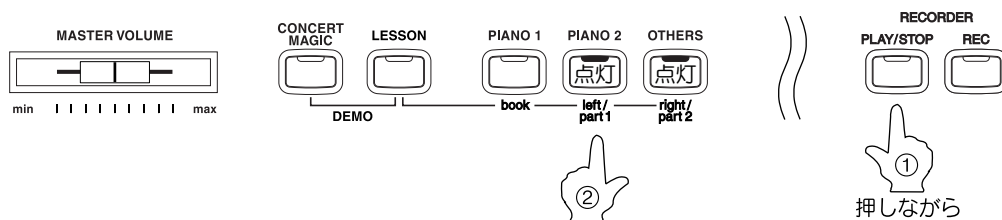
- ・音色変更は記憶します。
- ・デュアルモードの移行は記憶します。
- ・テンポ変更は記憶しません。
- ・タッチカーブ、トランスポーズボタンの ON/OFF 変更は、記憶されません。
再生時はトランスポーズがどこに設定してあっても、録音したときと同じ音程で再生されます。

2) 再生

録音した曲を再生します。

◇操作

PLAY/STOP ボタンを押しながら再生する SONG ボタンを押し点滅させます。



PLAY/STOP ボタンを押している間再生されるパートボタンが点灯します。
PLAY/STOP ボタンから手を離すと再生を開始します。

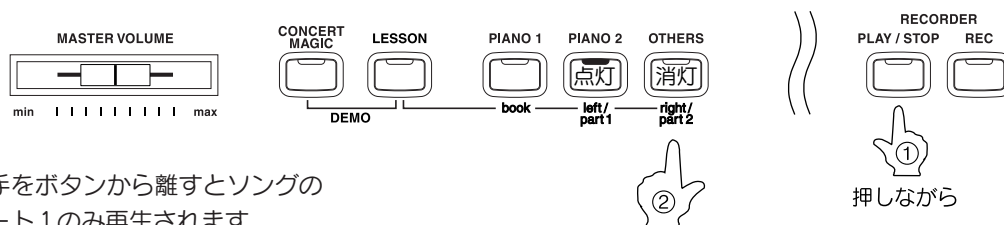
- 再生中には、演奏情報は、MIDIデータとして送信します。(P.37 参照)
- パート1は1ch、パート2は2chで送信します。
- デュアルを録音したときは、パート1は9ch、パート2は10chの情報を加えて送信します。

◆再生パートの選択

上の操作で PLAY/STOP ボタンを押した状態の時、パートのランプが点灯していると再生され、消灯していると再生されません。パート2を再生しないようにするには、下記のような操作になります。

◇操作

PLAY/STOP ボタンを押しながら PART2 ボタンを押し消灯させる。



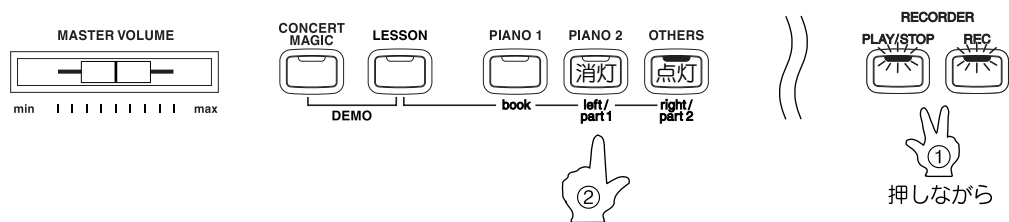
両手をボタンから離すとソングの
パート1のみ再生されます。

3) 曲の消去

録音に失敗したり、いらなくなった時にパート毎に消去できます。

◇操作

PLAY/STOP ボタンと REC ボタンを同時に押しながら消去する PART ボタンを選択します。



PLAY/STOP ボタンと REC ボタンを同時に押すと、録音されているパートのランプが点灯します。消去する PART ボタンを押してランプを消灯させたら、そのソングのパートのデータが消去されます。

上図は、パート1を消去します。

■ 録音されているソングを消去したい場合は、上記手順でパートの1と2を両方消去して下さい。また PLAY/STOP ボタンと REC ボタンを押したまま、電源を入れても消去できます。

5. 設定モード

La3 には、ピアノの演奏を楽しむために、いろいろな状態を設定することができます。
これを " 設定モード " といいます。

◇ 設定モードのメニュー

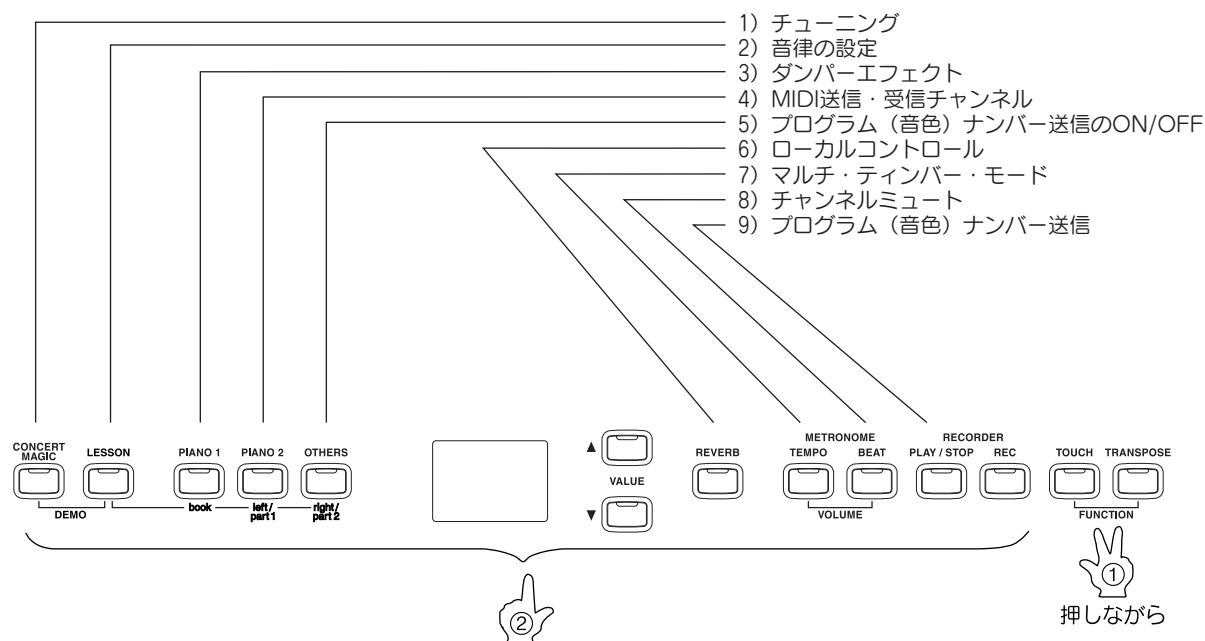
- | | |
|----------------------------|--------------------|
| 1) チューニング | 6) ローカルコントロール |
| 2) 音律の設定 | 7) マルチ・ティンバー・モード |
| 3) ダンパーエフェクト | 8) チャンネルミュート |
| 4) MIDI 送信・受信チャンネル | 9) プログラム（音色）ナンバー送信 |
| 5) プログラム（音色）ナンバー送信のオン / オフ | |

電源を入れた時は、ここで設定した値は自動的に初期値に設定されています。

◆ 設定モードへの入りかた

◇ 操作

^{タッチ} TOUCH ボタンと ^{トランスポーズ} TRANPOSE ボタンを同時に押しながら（^{ファンクション} FUNCTION）
各メニューが割り当てられたボタンを押します。

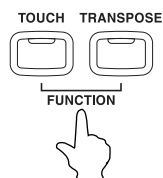


押された3つのボタンが点滅します。

◆ 設定モードの終了方

◇ 操作 1

^{タッチ} TOUCH ボタンまたは ^{トランスポーズ} TRANSPOSE ボタンを押します。



ランプの点滅が消え設定モードを終了し、通常の状態に戻ります。

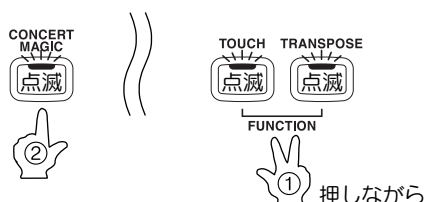
■ VALUE ボタン以外のボタンを押しても設定モードが終了しますが、終了すると同時に押したボタンの機能が働きます。

1) チューニング

チューニング調整は、他の楽器とピッチ（音程）を合わせるときに行います。

◇操作 1

^{タッチ} TOUCH ボタンと ^{トランスポーズ} TRANPOSE ボタンを同時に押しながら ^{ファンクション} (FUNCTION) ^{コンサートマジック} CONCERT MAGIC ボタンを押します。

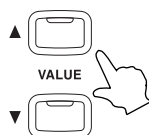


TOUCH、TRANPOSE、CONCERT MAGIC ボタンが点滅し、ディスプレイにメニュー名と現在の値が交互に表示されます。

tu n ⇌ 40.0

◇操作 2

^{バリュー} VALUE ボタン で値を設定します。



La3 では、『A』の音を基準にして設定をします。
427.0 ~ 453.0 (Hz) の範囲を 0.5Hz の単位で設定ができます。
表示は、百の位が省略されて十の位以下が示されています。

27.0 ~ 53.0 = 427.0 ~ 453.0

◆この状態で鍵盤を弾くと、" 設定モード " に入る前に選ばれていた音色が鳴ります。
チューニング調整は、この音色を使って行います。音色を変えたい場合は一度 " 設定モード " から出て音色を選びなおしてから、再度 " 操作 1 "、" 操作 2 " の操作を行います。

◆電源オン時は、440.0Hz に設定されています。

2) 音律の設定

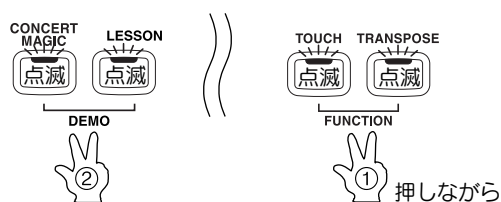
ピアノの調律法として、最も一般的な平均律だけでなく、ルネッサンス、バロック等の時代に用いられた古典音律を内蔵しています。

La3に内蔵されている音律の設定は、以下の通りです。

◆ 平均律 (ピアノ) (Equal P.only)	ピアノの音色が選択されている場合は、ピアノの調律曲線に従います。それ以外の音色が選択されていれば、平均律 (フラット) に従います。
◆ 純正律<長調> (Pure major)	3度と5度のうなりをなくした調律法で、合唱音楽では、現在でも随所にこの音律に基づいた演奏が行われています。
◆ 純正律<短調> (Pure minor)	純正律は、長調と短調で異なります。 長調と同様の効果を短調でも得られます。
◆ ピタゴラス音律 (Pythagorean)	5度のうなりをなくした調律法で、和音よりもメロディーを演奏すると非常に美しいのが特長です。
◆ 中全音律 (Meantone)	3度のうなりをなくした調律法で純正律の特長の5度が著しく不協和であることを改良したもので、平均律よりも和音が美しく響きます。
◆ ヴェルクマイスター第Ⅲ法 (Werkmeister) ◆ キルンベルガー第Ⅲ法 (Kirnberger)	調号の少ない調は、和音の美しい中全音律に近く、調号が増えるに従って、緊張感が高く、メロディーが美しいピタゴラス音律に近づけていくもので、古典音楽の作曲家の意図した " 調性の性格 " を反映することのできる調律法です。
◆ 平均律 (フラット) (Equal Flat)	ピアノの調律曲線を使わない平坦な平均律です。どのように移調しても和音の響きが変らないという特長があります。
◆ 平均律 (ストレッチ) (Equal Stretch)	ピアノの調律曲線を使った平均律です。ピアノの調律法として、最もポピュラーなものです。

◇操作 1

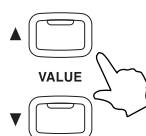
タッチ ^{トランスポーズ} TOUCH ボタンと ^{ファンクション} TRANSPOSE ボタンを同時に押しながら (FUNCTION) DEMO ボタンを押します。

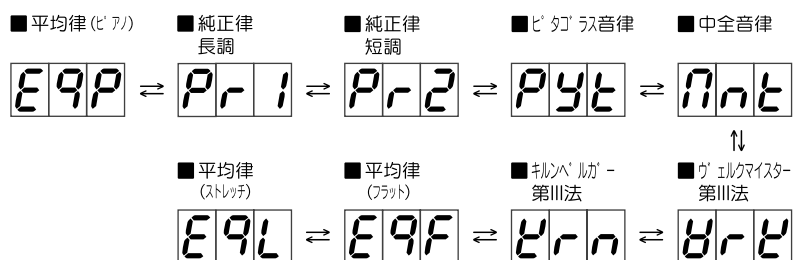


TOUCH、TRANSPOSE、DEMO ボタンが点滅し、ディスプレイにメニュー名と現在の状態が交互に表示されます。

◇操作 2

バリュー
VALUE ボタン で音律を設定します。



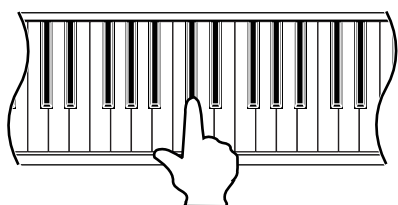


電源オン時は、平均律(ピアノ)に設定されています。

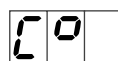
この場合、ピアノ音色を選択した時、自動的に平均律ストレッチ（ピアノの調律曲線を使った平均律）に設定され、ピアノ以外の音色の時には、自動的に平均律フラットに設定されます。

◇操作3

鍵盤を押して、音律の調（キー）を設定します。



C# の鍵盤を押す。



設定は 88 鍵全部でできます。

鍵盤を押したら、ディスプレイに調が表示されます。

◆ 平均律を選択した場合は、調の設定をしても変化はありません。

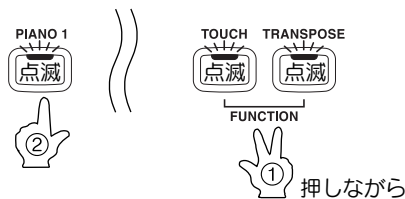
C →	C			F# →	F#		
C# →	C#			G →	G		
D →	D			G# →	G#		
D# →	D#			A →	A		
E →	E			A# →	A#		
F →	F			B →	B		

3) ダンパーエフェクト

ダンパーエフェクトとはダンパーペダル（P. 4）を踏んだ時のピアノ全体の共鳴効果をシュミレートしたもので、この共鳴音の音量を設定します。

◇操作 1

^{タッチ} TOUCH ボタンと ^{トランスポーズ} TRANSPOSE ボタンを同時に押しながら（^{ファンクション} FUNCTION）
^{ピアノ} PIANO1 ボタンを押します。

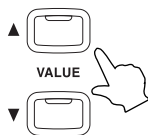


TOUCH、TRANSPOSE、PIANO1 ボタンが点滅し、
ディスプレイにメニュー名と現在の状態が交互に表示されます。

dnp ⇌ off

◇操作 2

^{バリュー} VALUE ボタン でオフ (OFF)、1～10 を選びます。



オフにするとダンパーペダルを踏んでも共鳴音はありません。
値を大きくすると共鳴音の音量が大きくなります。

■ OFF ■ 10
off ⇌ 10

◆電源オン時は、5に設定されています。

◆ MIDI について

MIDI について簡単に説明します。

MIDI (ミディ) とは、Musical Instrument Digital Interface の略称で、シンセサイザーやシーケンサーなどの電子楽器間を接続しお互いの情報をやりとりするための世界統一規格です。

MIDI 端子には、IN, OUT, THRU の3つの種類があります。いずれも MIDI 専用ケーブルで接続します。
La 3はこのうち IN, OUT の端子を備えています。(P.41)

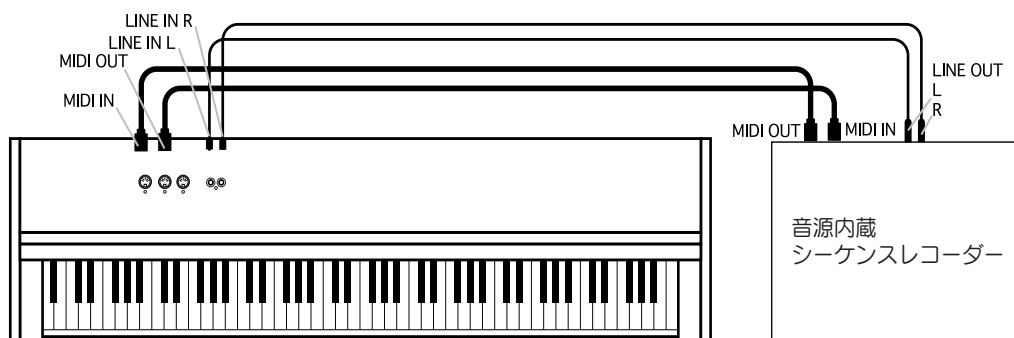
IN	: 鍵盤情報や音色情報を受信します。
OUT	: 鍵盤情報や音色情報を送信します。
THRU	: 受信した情報をそのまま他の楽器に転送します。

MIDI には、チャンネルというものがあります。チャンネルには、受信チャンネルと送信チャンネルの2種類があり、通常の場合、MIDI 機能をもった楽器はこの両者を備えています。

受信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器から情報を受信する場合のチャンネルで、送信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器へ情報を送信する場合のチャンネルです。

◇ MIDI の使用例

◆外部機器を使つての録音 / 再生



図の様に MIDI 対応の音源内蔵シーケンサー（レコーダー）に接続すれば、電子ピアノの演奏情報を録音し、それを再生することができ、電子ピアノの練習に役立てることができます。また、電子ピアノの設定をマルチティンバーオン（P.38 参照）にして録音 / 再生を行えば、ピアノ、ハーブシコード、ビブラフォンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむことができます。

また、音源内蔵シーケンサー（レコーダー）の内蔵音色を使ってピアノ演奏を楽しむこともできます。

その他、外部機器との接続は、P.41 をご覧ください。

◆ La3 の MIDI 機能

La3 の MIDI 機能は、以下の通りです。

◆ 鍵盤情報の送信・受信

La3 を弾いてシンセサイザー等から音を出したり、その逆が可能です。

◆ 送信・受信チャンネルの設定

送信・受信チャンネルを 1 ～ 16 の範囲で設定することができます。

◆ プログラム（音色）ナンバーの送信

La3 と MIDI で接続したシンセサイザー等の音色（プログラムされた音色）を La3 側の操作で変えたり、その逆が可能です。

◆ ペダル情報の送信・受信

ダンパーペダル、ソフトペダル、ソステヌートペダルのオン / オフ情報の送信・受信ができます。

◆ ボリューム情報の受信

シンセサイザー等を弾いて、La3 の音を出しているとき、シンセサイザーで La3 の音量をコントロールすることができます。

◆ マルチティンバーの設定

La3 が受信楽器になっているとき、複数の異なるチャンネルで鍵盤情報を受信して、各々別の音を出すことができます。

◆ エクスクルージブデータの送信・受信

フロントパネルの操作や設定モードで変更した設定をエクスクルージブデータとして送信・受信ができます。

◆ レコーダーの再生情報の送信

レコーダーに録音した演奏を、MIDI で接続した電子楽器で鳴らしたり、外部シーケンサーに録音することができます。

La3 の MIDI 機能についての詳細は、" MIDI インプリメンテーションチャート "（巻末）をご覧ください。

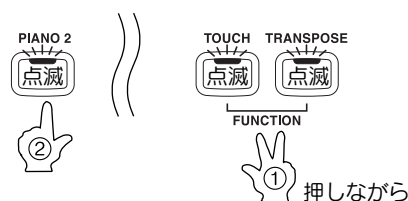
ミディ 4) MIDI 送信・受信チャンネル

接続されたMIDI楽器とさまざまな情報をやりとりするためには楽器同士のチャンネルを合わせておく必要があります。

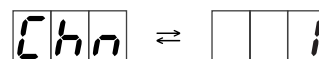
チャンネルは、送信チャンネルと受信チャンネルの2種類がありますが、La3ではそれぞれ別々のチャンネルに設定することはできません。1つのチャンネルを設定してそれが送信・受信両チャンネルを兼ねています。

◇操作 1

^{タッチ} TOUCH ボタンと ^{トランスポーズ} TRANPOSE ボタンを同時に押しながら (FUNCTION) ^{ピアノ} PIANO2 ボタンを押します。

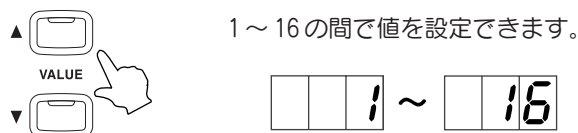


TOUCH、TRANPOSE、PIANO2 ボタンが点滅し、ディスプレイにメニュー名と現在の番号が交互に表示されます。



◇操作 2

^{バリュー} VALUE ボタンで値を設定します。



- ◆本機は電源オン時には、1～16のすべてのチャンネルの情報を受信できる状態になっています。これをオムニオンと呼びます。チャンネル設定を行うとオムニオフとなり、設定したチャンネルのみで受信するようになります。オムニオフで1チャンネルに設定したい場合は、一度チャンネルを2に設定してから1に戻してください。
- ◆マルチティンバーモードがオン (P.38) の状態でデュアル演奏 (P.8) した時、第2音色は、設定したチャンネル+1チャンネルで送信します。(但し、チャンネルを16に設定した場合は、1チャンネルで送信します。)

5) プログラム(音色)ナンバー送信 のオン / オフ

◆ 音色ボタンによるプログラムナンバーの送信 / パネル操作の送信

La3 では、音色を選ぶことによって下表に対応したプログラムナンバーを送信できるようになっています。
また、音色以外にも、タッチカーブ、デュアル、リバーブのボタン操作を MIDI エクスクルーシブデータとして送信することができます。

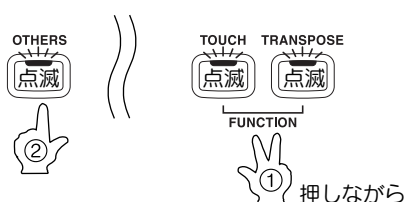
この音色を選ぶことによるプログラムナンバーの送信やボタン操作の送信は、次の方法により送信するか、しないか（オン / オフ）を選ぶことができます。

◆ 音色に対応する送受信プログラムナンバー

音 色	マルティンバーオフ、オン、1の時 プログラムナンバー	マルティンバーオン2の時 プログラムバンク		
		ナンバー	MSB	LSB
PIANO 1 (ピアノ1)				
コンサートグランド	1	1	121	0
スタジオグランド	2	1	121	1
メローグランド	3	1	121	2
PIANO 2 (ピアノ2)				
モダンピアノ	4	2	121	0
ホンキートンクピアノ	5	4	121	0
ロックピアノ	6	2	121	1
OTHERS (アザース)				
エレクトリックピアノ1	7	5	121	0
エレクトリックピアノ2	8	6	121	0
チャーチオルガン	9	20	121	0
ハーブシコード	10	7	121	0
ビブラフォン	11	12	121	0
ストリングアンサンブル	12	49	121	0
スローストリングス	13	45	95	1
クワイア	14	53	121	0
ファンタジー 1	15	89	121	0
ファンタジー 2	16	100	121	0

◇ 操作 1

タッチ トランスポーズ ファンクション
TOUCH ボタンと TRANSPOSE ボタンを同時に押しながら (FUNCTION)
OTHERS ボタンを押します。

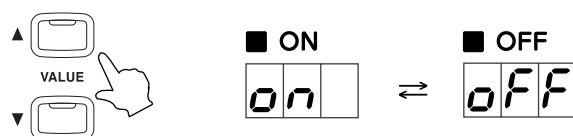


TOUCH、TRANSPOSE、OTHERS ボタンが点滅し、
ディスプレイにメニュー名と現在の状態が交互に表示されます。

PCN ⇔ on

◇ 操作 2

バリュー
VALUE ボタン で [オン / オフ] を設定します。



電源オン時は、音色ボタン によるプログラムナンバーの送信は、自動的にオンにセットされています。

デュアルモード時には、デュアルモードのオン / オフ情報、音色の設定などをエクスクルーシブで送信しますが、プログラムナンバーは送信しません。
(マルチティンバーオン1、オン2のときは、送信します。)

6) ローカル・コントロール

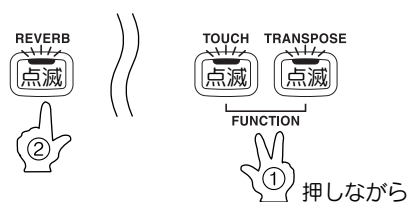
La3の鍵盤を弾いて音を出すか、出さないかを設定します。

ローカルコントロールがオンの時は、通常通り鍵盤を弾くと La3 の音が鳴ります。

一方、ローカルコントロールがオフの時は、鍵盤を弾いても音は鳴らず MIDI 情報を MIDI OUT し、外部からの MIDI 情報を受信したときのみ音が鳴ります。

◇操作 1

^{タッチ} TOUCH ボタンと ^{トランスポーズ} TRANPOSE ボタンを同時に押しながら (FUNCTION) ^{リバーブ} REVERB ボタンを押します。



TOUCH、TRANPOSE、REVERB ボタンが点滅し、ディスプレイにメニュー名と現在の状態が交互に表示されます。

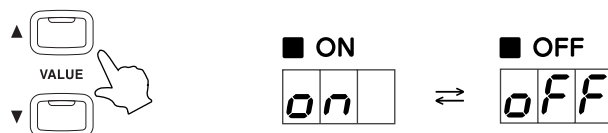
L	c	L
---	---	---

 ⇒

o	n	
---	---	--

◇操作 2

^{バリュウ} VALUE ボタンで〔オン / オフ〕を設定します。



◆オフに設定した場合、鍵盤を押しても音はでません。

◆電源オン時、ローカルコントロールは、オンに設定されています。

7) マルチ・ティンバー・モード

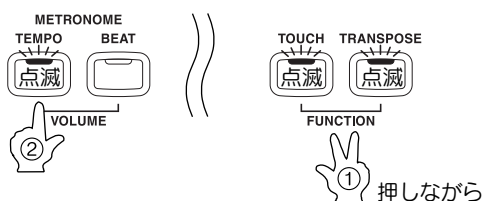
通常は、設定されたMIDIチャンネル（1～16のどれか1つ）で情報を送信受信しますが、マルチ・ティンバー・モードをオンすることにより、複数のMIDIチャンネルを受信して各々のチャンネルに対応した異なる音色を同時に出すことができます。

この機能により、外部にシーケンサーなどをつないで、La3 1台で複数の音色（マルチ・ティンバー）によるアンサンブル演奏が可能です。

La3では、マルチ・ティンバー・モード をオンに設定すれば、各チャンネル毎にプログラムチェンジ情報を受信することによってP.36の表に従った音色変更をします。

◇操作 1

^{タッチ} TOUCH ボタンと ^{トランスポーズ} TRANPOSE ボタンを同時に押しながら（^{ファンクション} FUNCTION）
^{テンポ} TEMPO ボタンを押します。

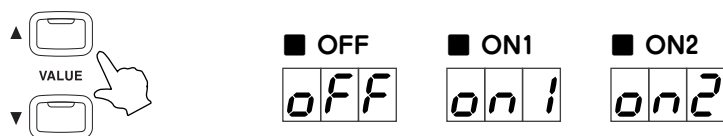


TOUCH、TRANPOSE、TEMPO ボタンが点滅し、ディスプレイにメニュー名と現在の状態が交互に表示されます。

MLT ⇔ OFF

◇操作 2

^{バリュウ} VALUE ボタンで〔オン1/ オン2/ オフ〕を設定します。



マルチ・ティンバー・モード がオフ、オン1のときに、プログラムナンバーを受信すると、P.36の表左側のプログラムナンバーに対応した音色が選ばれます。

マルチ・ティンバー・モード がオン2の時にプログラムナンバーを受信するとP.36の表右側のプログラムナンバーとバンクナンバーに対応した音色が選ばれます。

また、受信チャンネルごとに発音のオン/ オフを設定することができます。（チャンネルミュート P.39 参照）

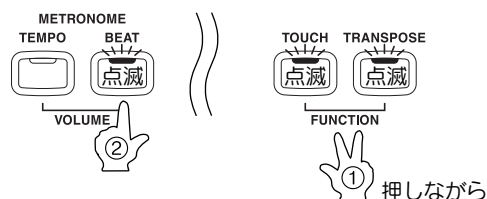
◆電源オン時、マルチ・ティンバー・モードはオフに設定されています。

8) チャンネルミュート

各チャンネルの発音のオン / オフが設定できます。
マルチティンバーモードオンの時のみチャンネルミュートの設定ができます。

◇操作 1

^{タッチ} TOUCH ボタンと ^{トランスポーズ} TRANPOSE ボタンを同時に押しながら (^{ファンクション} FUNCTION)
^{ビート} BEAT ボタンを押します。



TOUCH、TRANPOSE、BEAT ボタンが点滅し、
ディスプレイにメニュー名と現在の状態が交互に表示されます。

P01 ⇔ on

■マルチティンバーモードが、オフのときはこのモードには入れません。

◇操作 2

左端から 16 個の白鍵でチャンネルを押してから、^{バリュー} VALUE ボタン で [オン / オフ] を設定します。



■ ON ■ OFF
on ⇔ off

◆この状態では、鍵盤を押しても音はでません。

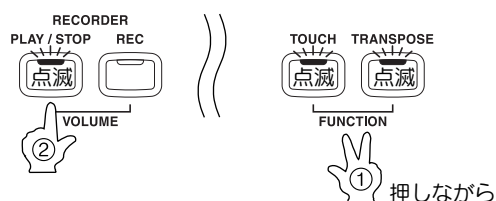
◆電源オン時はすべてのチャンネルがオンに設定されています。

9) プログラム(音色)ナンバー送信

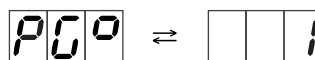
La3 では、1 ～ 128 までのプログラムナンバーを送信することができます。

◇操作 1

^{タッチ} TOUCH ボタンと ^{トランスポーズ} TRANSPOSE ボタンを同時に押しながら (^{ファンクション} FUNCTION)
^{プレイ/ストップ} PLAY/STOP ボタンを押します。

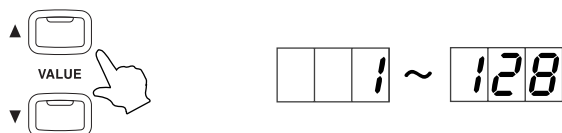


TOUCH、TRANSPOSE、PLAY/STOP ボタンが点滅し、
ディスプレイにメニュー名と現在の状態が交互に表示されます。



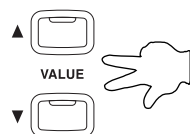
◇操作 2

^{バリュー} VALUE ボタン でプログラムナンバーを設定します。



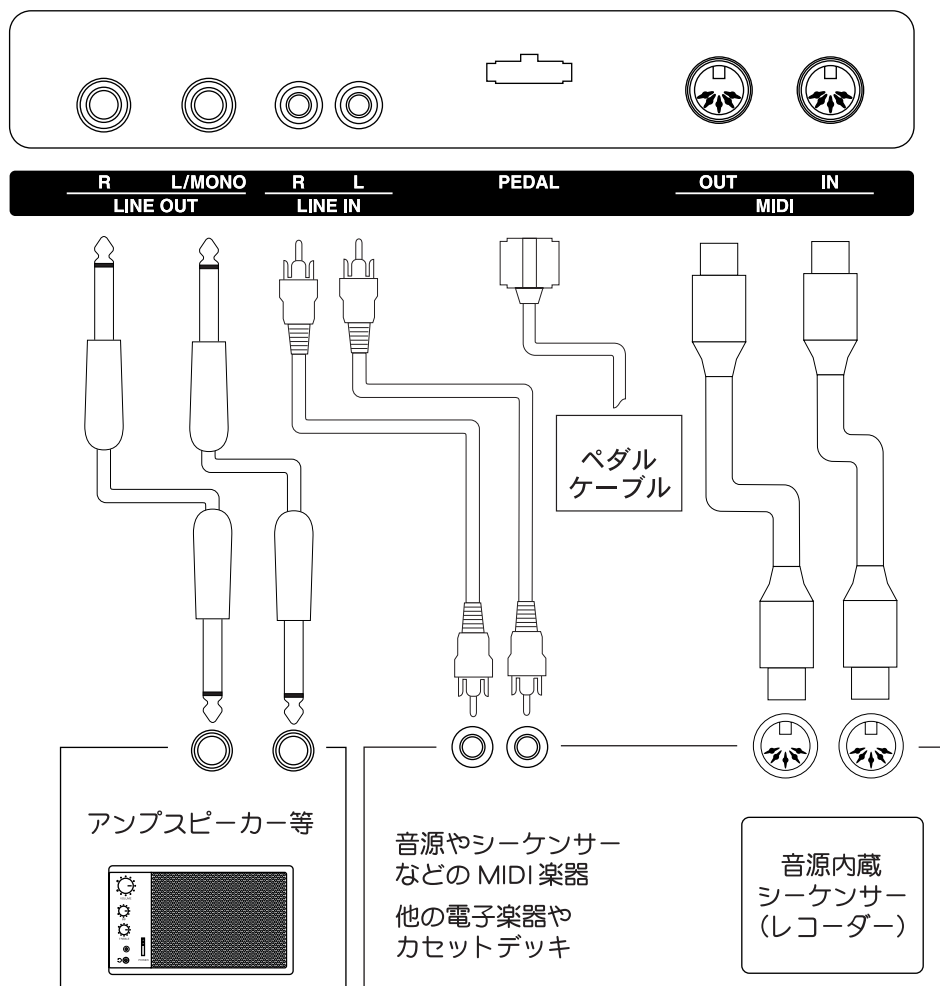
◇操作 3

2つの ^{バリュー} VALUE ボタンを同時に押すとプログラムナンバーの送信が
実行されます。



6. 付録

◆他の機器との接続



注意

La3のラインイン (LINE IN) とラインアウト (LINE OUT) を直接ケーブルで接続しないで下さい。
発振音が発生し、故障の原因になります。

①LINE OUT (ライン出力端子) <標準ジャック>

La3の音を他の外部機器 (アンプ、ステレオ) などで聴いたり、テープレコーダーに録音する場合に使用する出力端子です。出力レベルは、本体のボリュームで調節できます。R (アール) は右側、L / MONO (エル/モノ) は左側の出力を示しています。なお、モノラル信号は、L/MONOにのみプラグを接続したときに出力されます。

②LINE IN (ライン入力端子) <ピンジャック>

他の電子楽器やカセットデッキなどの出力端子とこの端子を接続すると、La3の内蔵スピーカーからそれぞれの機器の音を出力できます。この場合、本体のボリュームでは音量を調節できませんのでそれぞれの機器側で調節してください。R (アール) は右側、L (エル) は左側の入力を示しています。

③MIDI (ミディ)

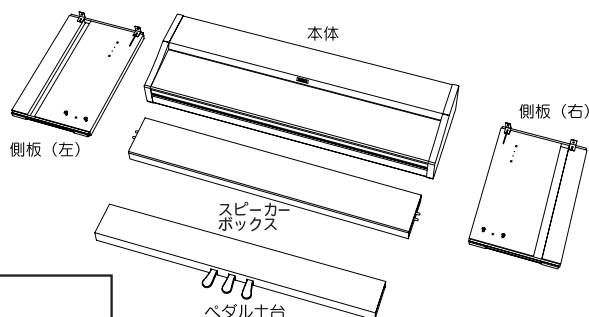
MIDI規格に対応している楽器と接続する端子です。

◆ La 3 組立説明図

この度は、カワイ電子ピアノをお買い上げいただき、ありがとうございます。

この説明書を一通りお読みになり、パーツがすべて、そろっていることを確認してから床や本体、スタンドを傷つけないように注意して組み立てて下さい。(解体する時は、組み立てと逆の手順で行って下さい。)

■ パーツ (同梱品) ※組み立てには (+) ドライバーを使用して下さい。



⚠ 注意

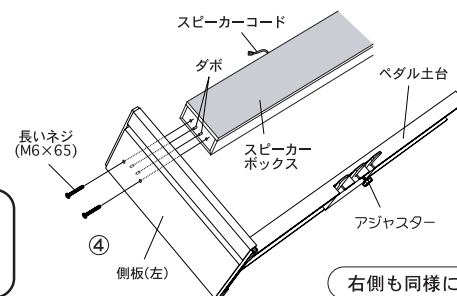
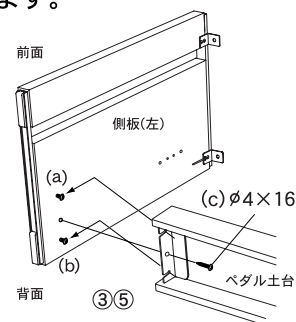
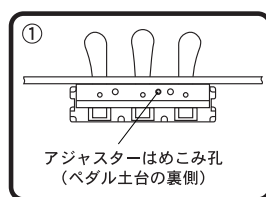
- ・ 組立は必ず2人以上で作業して下さい。



■ 組立順序

① 「側板 (左/右)」と「ペダル土台」・「スピーカーボックス」を固定します。

- ① ペダル土台の裏側からアジャスターを1cmくらいはめこみます。
- ② ペダル土台の裏側に結ばれているペダルコードをほどいて引き出しておきます。
- ③ 側板 (左/右) とペダル土台を、背面を下にして置きます。
側板のネジ(a)と(b)にペダル土台端の金具を図のようにずらして引っ掛けます。
- ④ スピーカーボックスのジャージ面を表に、スピーカーコードを上にしてダボを図のように側板の孔に差し込み、側板の外側から長いネジ2本 (M6×65) を締めます。
- ⑤ ネジ(a)(b)を締め、次に中央ネジ(c) (ø4×16) を締めます。
- ⑥ 側板とペダル土台、スピーカーボックスの組立品を起こします。



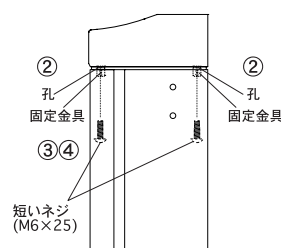
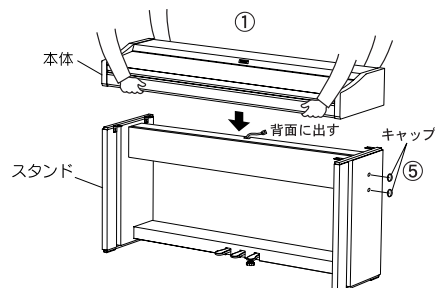
ここがポイント!

- ・ 側板(左/右)とスピーカーボックス、ペダル土台をしっかり密着させて下さい

右側も同様に組み立てます。

② 本体を固定します。

- ① スピーカーコードを背面側に出し、スタンドの上方から本体を側板 (左/右) の上に乗せます。
- ② 本体底面部にある孔と固定金具の孔位置を合わせます。
- ③ 短いネジ4本(M6×25)を半分くらい締めます。
- ④ 全てのネジがまっすぐ入る位置に調整してもう一度しっかりとネジを締めます。
- ⑤ キャップを側板ネジ(4個)の頭にはめこみます。

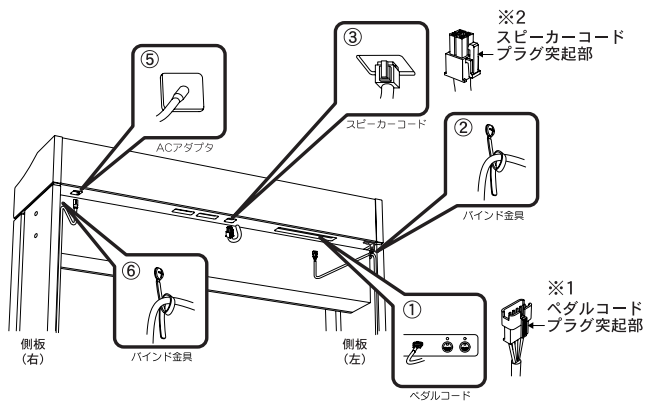


⚠ 注意

- ・ 本体を乗せる時に、手をはさまないように充分注意して下さい。
- ・ ネジ止めしないで使用すると、本体がスタンドから落下する恐れがあり、大変危険です。
- ・ ネジを無理に締めたり、押し込んだりすると、本体を破損する恐れがあります。
- ・ 特に小さなお子さまのいるご家庭ではキャップを飲み込まないようにご注意ください。

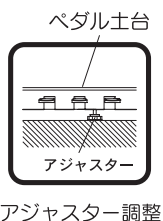
③ コードを接続します。

- ① ペダルコードのプラグを本体に差し込みます。
このとき本体を背面からみて、プラグの突起部※1が手前になるように差し込みます。
- ② ペダルコードを側板(左)のバインド金具で固定します。
- ③ スピーカーコードのプラグを本体に差し込みます。
このとき本体を背面からみて、プラグの突起部※2が手前になるように差し込みます。
- ④ ACアダプタと電源コードをしっかりと接続します。
- ⑤ ACアダプタのプラグを本体に差し込みます。
- ⑥ ACアダプタのコードを側板(右)のバインド金具で固定します。



④ アジャスターを調整します。

- ペダル土台の底面のアジャスターを、床にぴったりつくまで回します。

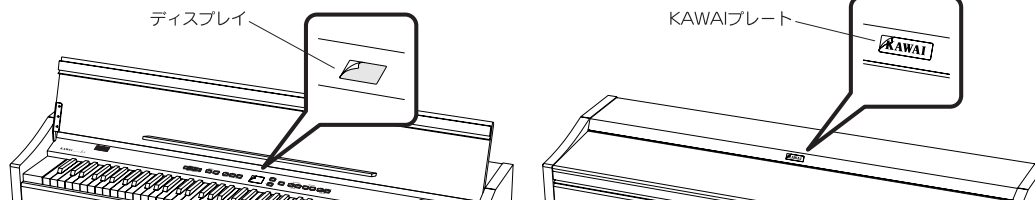


△ 注意

- ・ アジャスターが浮いた状態で使用するとペダル土台を破損する恐れがあります。必ずアジャスターが床についた状態でご使用下さい。
- ・ アジャスターが床についたら、それ以上はアジャスターを回さないで下さい。ペダル土台を破損する恐れがあります。
- ・ 移動の際は必ずアジャスターを取り外して移動し移動後に再度調整して下さい。

⑤ 保護フィルムをはがす。

- 「ディスプレイ」と「KAWAIプレート」の保護フィルムをはがします。

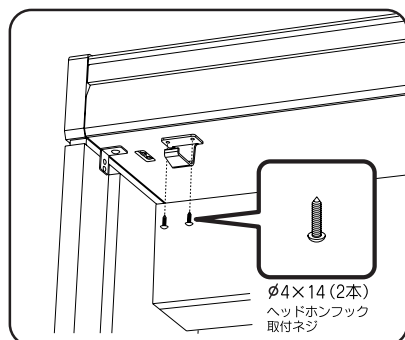


⑥ ネジを確認します。

- 最後にネジがしっかり締まっているかもう一度確認します。

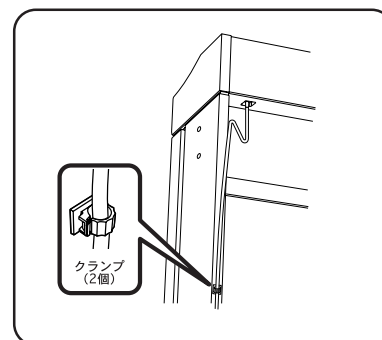
組立終了です。お疲れ様でした！

■ ヘッドホンフック（ヘッドホン掛け）の取付について



- ヘッドホンフックと同封されているネジ2本(φ4×14)で、本体左側のネジ穴に取り付けます。
- ※ ヘッドホンフックが不要な方は取り付けの必要はありませんので、取扱説明書等と一緒に保管してください。

■ クランプの取付について



- クランプを側板左右背面下に取り付け、コードを通します。
- ※ クランプが不要な方は取り付けの必要はありませんので、取扱説明書等と一緒に保管してください。

◆ 主な仕様

■ 鍵盤	88鍵／アドバンスト・ハンマー・アクションⅣ-E
■ 発音数	最大96音（音色により異なる）
■ 音 色（16音色）	コンサートグランド、スタジオグランド、メロウグランド、モダンピアノ、ホンキートンク、ロックピアノ、エレクトリックピアノ1、エレクトリックピアノ2、チャーチオルガン、ハーブシコード、ピブラフォン、ストリングアンサンブル、スロースtringス、クワイア、ファンタジー1、ファンタジー2
■ ディスプレイ	3桁LED
■ リバーブ	ルーム1、ルーム2、ステージ、ホール1、ホール2
■ メトロノーム	1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、3/8、6/8拍子 テンポ=30～300 ボリューム=1～10
■ レコーダー	2トラック×1ソング、総記憶音数 約7,500音
■ デモ曲	クラシカルピアノコレクション29曲+音色デモ15曲
■ コンサート マジック	全40曲
■ レッスン	練習曲：バイエル126曲（バリエーション20曲を含む）、ブルクミュラー25曲、ブルクミュラーペダルなし24曲 右手、左手個別再生可、テンポ変更可
■ タッチカーブ	ノーマル、ライト1、ライト2、ヘビー1、ヘビー2、オフ
■ トランスポーズ	-12～+12半音
■ その他の機能	デュアル、ダンパーエフェクト、チューニング、MIDI機能設定
■ ペダル	ダンパー（ハーフ対応）、ソフト、ソステヌート
■ キーカバー	回転式
■ 外部端子	ヘッドホン（2）、MIDI（IN、OUT）、LINE OUT（L/MONO、R）、LINE IN（L、R）
■ 出 力	13W×2
■ スピーカー	12cm×2（スピーカーボックス入り）、5cm×2
■ 定格電圧	AC100V、50/60Hz
■ 消費電力	30W
■ 仕上げ	KAWAIチェリー
■ 寸 法	[W×D×H] 139×34×82（cm）（セットアップ時、ただし蓋を開けた状態）
■ 重 量	48Kg
■ 同梱品	本体、スタンダー式、ヘッドホン、高低自在椅子、ACアダプター＜PS-153＞、ヘッドホンフック、取扱説明書（本書）、クラシカル ピアノ コレクション（楽譜）、スタンド組立図、保証書、ご愛用者カード、アフターサービスと音楽教室のご案内、「楽譜集」のご案内、「楽譜集」の払込取扱票

故障かな？と思ったら

電源が入らない（パイロットランプが点灯しない）

- 電源ケーブルが本体と AC アダプターにしっかり差し込んであるか確認する。（P6）

鍵盤を弾いても音が出ない

- MASTER VOLUME（マスターボリューム）が下がっていないか確認する。（P6）
また、ヘッドホンが接続されたままになってないか確認する（P5）

ペダルが効かない

- ペダル接続コードが本体の端子にしっかり差し込まれているか確認する（P43）

パネルディスプレイ（3桁LED）が消えている

- 故障ではありません。通常モードでは音色を切りかえた時に約2秒間音色番号を表示した後消えます。

症状が改善されない場合や、その他ご不明な点がございましたら、下記までご連絡いただきますようお願い致します。

[お問い合わせ先について]

◆ご不明な点がございましたら、下記お客様相談室をご利用ください。

お客様相談室

Tel : 053-457-1311 E-mail : customer@kawai.co.jp

電話受付時間 9:00~12:00 13:00~17:00（土日曜、祝日及び弊社規定の休日を除きます）

お客様サポート・お問い合わせフォーム

<http://www.kawai.co.jp/>の「お客様サポート」よりお進みください。

◆故障と思われる場合については、お買い求めいただいた販売店、またはお近くのカワイ・テクノ・センターまでご連絡ください。

※詳細は同梱の「アフターサービスと音楽教室のご案内」の冊子をご参照ください。

◆ KAWAI [Model La3] MIDI インプリメンテーション チャート

ファンクション		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源オン時 設定可能	1 1 ~ 16	1 1 ~ 16	
モード	電源オン時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード3 モード1, 3 *	* 電源ON時オムニ・オン。 MIDIチャンネル設定操作に よりオムニ・オフ。
ノート ナンバー	音域	21 ~ 108 ** *****	0 ~ 127 0 ~ 127	** 9 ~ 120 トランスポーズ を含む。
ベロシティ	ノート. オン ノート. オフ	○ 9nH v=1-127 × 9nH v=0	○ ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ. ベンド		×	×	
コントロール チェンジ		0, 32 7 10 11 64 66 67 ○ (右ペダル) ○ (中ペダル) ○ (左ペダル)	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	バンクセレクト ボリューム パンポット エクスプレッション ダンパーペダル リステヌートペダル ソフトペダル
プログラムチェンジ 設定可能範囲		○ (0 ~ 127) *****	○ ***	*** プログラムチェンジ対応表 参照
システムエクスクルーシブ		○	○	
コモン ソングポジション ソングセレクト チューン		× × ×	× × ×	
システム リアルタイム		× ×	× ×	
その他 ローカルオン/オフ オールノートオフ アクティブセンス リセット		× × ○ ×	○ ○ (123 ~ 127) ○ ×	
備 考				

モード1 : オムニオン、ポリ モード2 : オムニオン、モノ
 モード3 : オムニオフ、ポリ モード4 : オムニオフ、モノ

○: 有り
 ×: 無し

KAWAI

株式会社河合楽器製作所

電子楽器事業部

〒430-8665 浜松市寺島町200番地

TEL. <053>457-1277 / FAX. <053>457-1279

<http://www.kawai.co.jp/>

KPSZ-0121

0602S

Printed in Japan

© 2006 (株) 河合楽器製作所
本取扱説明書の一部、もしくは全部を無断で複写・転載することを禁じます。
2006年3月発行

♻️100



このマニュアルは古紙配合率100%再生紙とSAS（アメリカ大豆協会）認定の大豆油インクを使用しています。